ビジネスインタビュー
ヒットの兆し
Made in Gifu

岐阜から世界に美濃友禅®

河村尚江デザイン事務所
河村尚江さん

展示場所：岐阜商工信用組合本店

展示会：ニューヨーク

友禅染は、江戸時代から伝わる日本を代表する染色技法であるが、その友禅染に新たな風が吹き込んでいる。河村尚江さんが立ち上げたオリジナルブランド美濃友禅が、世界各地で賞賛を浴びている。今回は、テキスタイルデザイナーの河村尚江さんにお話を伺った。

デザイナーを目指したきっかけ

河村さんが5歳のときのこと、父親の知人の画商から「尚江ちゃんは画家になるといいよ」と、アドバイスを受けた。

「父が書道をやっていたこともあって、私は藁半紙に墨で絵を描いていました。お花畑で女の子が網を持って走り回っている風景を描いた絵を、父が飾っていたようですが、たまたま画商さんの目に留まったようですね」。まだ幼かった河村さんはこのアドバイスをきっかけに、絵を描くことに一層の自信を持ち、絵画に没頭することになった。

日に日に絵画に没頭していった河村さんは、高校は加納高等学校美術科に進学、大学では多摩美術大学で染織デザインを専攻した。「キャンバスが紙から布へ変わりましたが、デザインという意味では同じなので楽しく学べました。ただ、社会に出たらどのような仕事に就けるか不安はありました」。自身の選んだ道に一抹の不安はあったが杞憂に終わる。河村さんは大学院在学中から国内外の展示会に出展していたため、注目を集めていた。そのため開業と同時に、大手企業から業務委託を受けるなど順風満帆な滑り出しとなった。

美濃友禅

友禅染とは、糊で絵の輪郭線を置いていき模様を染める技法で、京都・加賀・江戸・名古屋の四大友禅が有名である。

美濃友禅は、「友禅染」や「型染」「ロウケツ染」など様々な染織技法を駆使した上に、河村さんの感覚を付加したオリジナルで2016年に河村さんが商標登録をした。

「染料は、赤色一つとっても15種類あるので、濁った色にならないよう色と色の相性を常に考えています。いったん作業に入ったら15時間は行うので、手がしびれて動かなくなることもあります」。この気の遠くなるような工程を経ることで、色が幾つも重なり合いながらも、透き通った新感覚の現代アートができあがるのだ。

河村尚江デザイン事務所
岐阜市高岩町13番地
Tel.090-8150-5063

個展：ノリタケの森ギャラリー

河村さんは、国内はもとよりフランスやモンゴルのコンテストで数々の賞を受賞してきた。とりわけ、2012年にはフランスで開催されたゴッホ生誕160年記念ジャパン芸術祭で金賞を受賞している。また、海外の展示会にも積極的に出展しており、なかでも世界最大級の国際見本市フランクフルトメッセ「アンビエンテ」には、企業のデザイナーとして複数回にわたって出展した。

現在、河村さんは岐阜に拠点を構えて活動しており、美濃友禅というブランド名からも伝わるように、故郷への思い入れはひと一倍強い。

「夜、長良川の水面に反射する月明かり。春から夏にかけての金華山のやわらかい緑。この色彩あふれる風景を、年を重ねるごとに強く感じるようになりました」。岐阜で感じたインスピレーションを作品に昇華し、国際的な展示会で次々に発表している。

おもてなしの心を表現

来年開催される東京オリンピック・パラリンピックのおもてなしの一環として、福岡県の呉服店が、五輪参加の国々をイメージする振袖を制作する企画を進めている。日本中のデザイナーと連携しているが、岐阜からは唯一、河村さんが参画しコソボ共和国を担当することになった。

コソボ共和国は、バルカン半島に位置する2008年にユーゴスラビアから独立宣言した国で、たびたび戦争や内紛に巻き込まれてきた。

この一大プロジェクトに取り組むにあたり、岐阜市の老舗呉服屋柏屋商事の武藤社長に相談し慎重に進めた。何度も何度も打ち合わせを重ねて、色やデザインが決まった。「コソボの人たちは昔から土偶を大切にし民族の象徴としてきました。そのため土偶と、首都にある橋、国立図書館をデザインした振袖を作りました」。河村さんは、平和と希望への想いを込めて日本で最高のおもてなしをしたいとの考えだ。

左：武藤さん　右：河村さん

これから

呉服小売店の市場規模は年々減少している。大手の呉服屋では、洋服や革靴と組み合わせる新たな着こなしや、ジャージ素材の着物や革素材の草履など、伝統的な着物とは一線を画した若者向けの提案をしている。

「美濃友禅は、いくつかの技法を用いて染色の魅力を伝えます。絵画のようなアートをまとうコンセプトを発信できれば…」。河村さんの取り組みは、これまで着物に縁がなかった海外の人たちや芸術的感度の高い人たちに訴えかけ、着物の新たな展開につながる可能性がある。

美濃友禅は、河村さんが独自に取り組み始めて間もなく30年。絵画等の芸術品が数十年の時を経て認知されることがあるが、美濃友禅はまさにこれからだ。

経営支援員による伴走型支援

河村さんは、昨年度の小規模事業者持続化補助金の採択を受けて、ニューヨークの展示会に出展されました。NY在住の日本人向けに発刊している週刊NY生活に「光と色彩のシャワーが点から注いでいるような錯覚に陥る。彼女の手にかかると伝統の枠組みをいとも簡単に飛び越え、現代アートしての色彩を放ち始める」と掲載されたように、評判も上々だったようです。

今後も引き続いて、美濃友禅の販路開拓に協力したいと思います。

淺野経営支援員